

業務の適正を確保するための体制

(1) 業務の適正を確保するための体制の決定内容

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制についての決定内容は以下のとおりであります。

① 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

法令、定款および社内規則等に基づき、株主総会議事録および取締役会議事録等各種議事録ならびに稟議書等決裁書類を各主管部門にて保存・管理し、取締役・監査役は、これらの文書等を閲覧できる体制を確保するものとする。

② 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理規程に基づき、リスクマネジメント委員会がリスクの把握・分析ならびに組織横断的なリスク管理体制を推進し、取締役にその実施状況を定期的に報告するとともに、必要により体制を見直すものとする。

③ 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役は、取締役会規則に基づき取締役会を開催し、取締役の担当職務の決定、事業戦略・経営方針等の重要事項を決定するとともに、各業務部門の業務執行の責任者として執行役員を選任し、各部門における執行の権限を与えて業務の迅速な遂行と目標達成にあたらせ、これを監督する。また、上級管理職任務権限規程により、職務権限および意思決定ルールを明確にし、かつ定期的に開催する経営会議および経営診断を通じて、事業計画・経営施策・業務実施計画の推進状況を確認することで、適切かつ効率的に職務の執行が行われる体制を確保するものとする。

また、取締役の職務の執行に対しては、労・使により構成される中央労使協議会等、各種委員会を適宜開催し、事業計画・重要組織変更・経営施策等を説明・協議して、効率性を確保するものとする。

④ 当社の取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

NOK企業行動憲章に基づき、事業活動においてコンプライアンスを重視することを明確にするとともに、コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針に基づき、従業員教育の実施等により、法令、定款および社内規則等に適合する体制を確立し、推進するものとする。

⑤ 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

内部統制規程に基づき、次のとおり子会社に対する体制を整備し、企業集団の業務の適正を確保するものとする。

また、財務報告に係る内部統制規程に基づき、当社および子会社の財務報告の信頼性の確保のための確認を取締役の指示に基づき実施するものとする。

イ. 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

内部統制規程に基づき、子会社管轄部門が管轄する子会社の経営状況を確認するとともに、本社機能部門がそれぞれの所管業務について、子会社に必要な指示と支援を行い、その推進状況を確認するものとする。

ロ. 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

内部統制規程に基づき、本社機能部門が子会社にリスク管理体制を整備させるとともに、本社機能部門・子会社管轄部門にその実施状況を定期的に報告させ、必要により体制を見直すよう指示するものとする。

ハ. 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

子会社の経営者・管理職が参加する総合経営会議を半期毎に開催し、情報の共有、経営の透明性を図るものとする。当会議においてグループ経営施策・事業計画の推進状況の報告・討議を行い、企業集団全体の経営の効率性の確保を図るものとする。

二. 子会社の取締役等・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

内部統制規程に基づき、本社機能部門が子会社に企業行動憲章・コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針を整備させ、事業活動においてコンプライアンスを重視することを明確にさせるとともに、法令、定款および社内規則等に適合する体制を確立、推進させ、その推進状況を確認するものとする。

- ⑥ **当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項**
監査役の職務を補助すべき使用人については、その職務権限・人選等を監査役と協議の上、法令等に精通し、監査役の補助ができる人材を置くものとする。
- ⑦ **前号の使用人の当社の取締役からの独立性および当該使用人に対する当社の監査役からの指示の実効性の確保に関する事項**
監査役は、職務を補助すべき使用人は、監査役は、監査役の補助業務中は監査役の指揮命令に従い、監査役会をはじめ監査役の主要な会議に出席し、監査役からの指示を実行するものとし、当該使用人を変更する場合は監査役と協議するものとする。
- ⑧ **当社および子会社の取締役・使用人が当社の監査役に報告をするための体制その他の当社の監査役への報告に関する体制**
取締役会の諮問機関である内部統制監査委員会が、内部統制規程に基づき、当社および子会社の業務の適正を確保する体制を定期的に監査し、その結果を監査役会に報告するものとする。
- ⑨ **前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制**
前号の報告をした者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社および子会社に周知徹底するものとする。
- ⑩ **当社の監査役は、職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項**
監査役会規則に基づき監査役会で策定された監査方針、監査計画に基づき、監査役が職務を執行できるよう、その費用を確保するものとする。
- ⑪ **その他当社の監査役は、監査が実効的に行われることを確保するための体制**
取締役の職務執行を監督するため、監査役会規則に基づき監査役会で策定された監査方針、監査計画に則り、監査役が、取締役会他重要な会議への出席ならびに業務および財務の状況調査を行える体制を確保するものとする。
また、会計監査人と監査役が定期的な意見交換を実施するものとする。
更には、代表取締役と監査役が相互に意見交換等を行う「代表取締役・監査役会」を定期的の実施するものとする。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、前記(1)「業務の適正を確保するための体制の決定内容」に基づいて、体制の整備とその適切な運用に努めております。その運用状況の概要は以下のとおりであります。

① 情報の保存および管理体制の運用状況の概要

株主総会議事録および取締役会議事録等各種議事録ならびに稟議書等決裁書類を各主管・起案部門にて遅滞なく作成・起案し、適切に管理・保管しております。

② リスク管理体制の運用状況の概要

リスク管理規程に基づき、本社機能部門が組織横断的なリスク管理体制を整備し、リスクマネジメント委員会がリスクの把握・分析を行い、取締役にその実施状況を報告しております。

③ 効率的な職務執行体制の運用状況の概要

執行役員、上級管理職は職務権限・意思決定ルールに基づき迅速かつ効率的な業務執行を行っており、取締役は、経営会議（当期は3回）、経営診断（当期は10回）等を通じて、その業務執行を監督しております。また、取締役会（当期は14回）、中央労使協議会（当期は16回）、その他各種委員会を通じて、取締役の職務執行が適切かつ効率的に行われているかを確認しております。

④ コンプライアンス体制の運用状況の概要

NOK企業行動憲章・コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針を周知・徹底するとともに、「コンプライアンス推進月間」や従業員教育の実施、内部通報窓口の設置等により、法令、定款および社内規則等の遵守の取組を継続的に行っております。

⑤ グループ管理体制の運用状況の概要

- イ. 子会社の経営状況や当社の指示と支援の推進状況について、適宜報告を受けております。
- ロ. 子会社にリスク管理体制を整備させ、その実施状況について本社機能部門が報告を受けております。
- ハ. 総合経営会議を年2回開催し、企業集団全体の経営の効率性を確保しております。
- ニ. 子会社に企業行動憲章・コンプライアンス規程・従業員コンプライアンス行動指針を整備させ、法令、定款および社内規則等の遵守状況を定期的に確認しております。
- ホ. 当社および子会社の財務報告の信頼性の確保のための確認を年1回実施しております。

⑥ 監査役監査体制の運用状況の概要

- イ. 監査役と協議の上、法令等に精通し、監査役の補助ができる人材を、監査役の職務を補助すべき使用人として置いております。
- ロ. 監査役の職務を補助すべき使用人は、監査役会等に出席し、監査役からの指示に基づき職務を遂行しております。
- ハ. 内部統制監査委員会が、当社および子会社の業務の適正を確保する体制を年1回監査し、その結果を監査役会に報告しております。
- ニ. コンプライアンス規程において、内部通報窓口に報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止しており、その旨を当社および子会社に周知徹底しております。
- ホ. 監査役が監査方針、監査計画に基づき職務を執行できる費用を確保しております。
- ヘ. 監査役は、取締役会他重要な会議に出席し、業務および財務の状況調査を行っております。
また、会計監査人とは定期的な意見交換を実施し、代表取締役とは「代表取締役・監査役会」を年2回、社外取締役とは「社外取締役・監査役会」を年3回開催しております。

連結株主資本等変動計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	23,335	22,837	367,822	△323	413,672
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△8,648		△8,648
親会社株主に帰属する当期純利益			3,419		3,419
自 己 株 式 の 取 得				△0	△0
自 己 株 式 の 処 分				98	98
連結子会社の自己株式取得による持分の増減		4			4
連 結 子 会 社 の 合 併 に よ る 増 減		126			126
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		275			275
持分法適用会社の増加に伴う利益剰余金増加高			11		11
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当 期 変 動 額 合 計	－	407	△5,217	97	△4,713
当 期 末 残 高	23,335	23,244	362,604	△226	408,959

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	57,490	11,909	△23,416	45,983	40,238	499,894
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当						△8,648
親会社株主に帰属する当期純利益						3,419
自 己 株 式 の 取 得						△0
自 己 株 式 の 処 分						98
連結子会社の自己株式取得による持分の増減						4
連 結 子 会 社 の 合 併 に よ る 増 減						126
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						275
持分法適用会社の増加に伴う利益剰余金増加高						11
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△9,795	247	△1,217	△10,765	1,083	△9,682
当 期 変 動 額 合 計	△9,795	247	△1,217	△10,765	1,083	△14,395
当 期 末 残 高	47,694	12,157	△24,633	35,218	41,321	485,498

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(ご参考) 連結キャッシュ・フローの状況 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位: 百万円)

営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物の 期末残高
63,854	△79,259	6,633	80,761

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

- (1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

イ. 連結子会社の数

93社

ロ. 主要な連結子会社の名称

タイNOK Co., Ltd.
ユニマテック株式会社
日本メクトロン株式会社
メクテック Corp.台湾
シンジーテック株式会社

② 非連結子会社の状況

イ. 主要な非連結子会社の名称

メクテック台湾（健益）

ロ. 連結の範囲から除いた理由

非連結子会社の総資産額・売上高・当期純損益及び利益剰余金等の各合計は、連結計算書類上の総資産額・売上高・親会社株主に帰属する当期純損益及び利益剰余金等に対し、いずれも僅少であり、全体として連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲に含めておりません。
- (2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

イ. 持分法適用の非連結子会社及び関連会社数

24社

ロ. 主要な会社等の名称

イーグル工業株式会社
平和オイルシール工業株式会社
フロイデンベルグNOKジェネラルパートナーシップ

② 持分法を適用していない非連結子会社の状況

主要な会社等の名称

該当事項ありません。
- (3) 連結の範囲及び持分法の適用の範囲の変更に関する事項

① 連結の範囲の変更

イ. 新規連結子会社（3社）

メクテックマニユファクチャリング Corp. ヨーロッパ CZ s.r.o. 他2社

ロ. 連結範囲から除外した会社（2社）

フガクモールドプロダクツ（無錫）Co.,Ltd. 他1社

② 持分法の適用範囲の変更

イ. 持分法の適用範囲に追加した会社（3社）

神奈川精機株式会社 他2社

ロ. 持分法の適用範囲から除外した会社（2社）

メクテックマニユファクチャリング Corp. ヨーロッパ CZ s.r.o. 他1社
- (4) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は40社であり、その事業年度末日は12月31日であります。このうちNOK Inc.につきましては、当該事業年度末日と連結会計年度末日との間に生じた重要な取引については、連結上、必要な調整を行うこととしております。また、メクテックマニユファクチャリングCorp.珠海Ltd.他38社につきましては、連結決算日である3月31日に本決算に準じた仮決算を行っております。
- (5) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. その他有価証券

・ 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

・ 時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

ロ. デリバティブ

時価法によっております。

ハ. 棚卸資産

当社及び国内連結子会社の製品・仕掛品は主として売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）、原材料及び貯蔵品は総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）により評価しております。在外連結子会社は主として移動平均法又は先入先出法による低価法によっております。

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物

5～50年

機械装置及び運搬具

4～10年

- ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
- ハ. リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- 二. 長期前払費用
均等償却しております。
- ③ 重要な引当金の計上基準
 - イ. 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等については個別に債権の回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
海外子会社は、主として債権の実態に応じ貸倒見積額を計上しております。
 - ロ. 賞与引当金
従業員賞与の支払いに備えるため、主として支給見込額基準により計上しております。
- ④ 退職給付に係る会計処理方法
 - イ. 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
- ⑤ ヘッジ会計の方法
 - イ. ヘッジ会計の方法
金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を行っております。
 - ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象
(ヘッジ手段) 金利スワップ
(ヘッジ対象) 借入金金利
- ハ. ヘッジ方針
金利スワップについては、借入金の金利変動によるリスクをヘッジする目的で行っております。
- 二. ヘッジ有効性評価の方法
金利スワップについては、特例処理の要件を満たしており、その判定をもって有効性の判定に代えております。
- ホ. のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、原則として5年間の均等償却を行っております。
- ⑥ その他連結計算書類の作成のための重要な事項
 - イ. 消費税等の会計処理方法
当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 - ロ. 連結納税制度の適用
連結納税制度を適用しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(法務省令第5号 平成30年3月26日)を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保資産

① 担保に供している資産

土地	18百万円
建物及び構築物等	350百万円
投資有価証券	7百万円
合計	376百万円

② 上記に対応する債務

短期借入金	74百万円
長期借入金	177百万円
合計	251百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 452,318百万円

(3) 受取手形割引高 12百万円

(4) 受取手形裏書譲渡高 136百万円

(5) 期末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

受取手形	1,776百万円
受取手形裏書譲渡高	10百万円

4. 連結損益計算書に関する注記

減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

場所	用途	種類
茨城県牛久市	事業用資産	機械装置、建物及び構築物
タイ アユタヤ県	遊休資産	機械装置
中国 上海市	事業用資産	機械装置、無形固定資産

(2) 減損損失の認識に至った経緯

資産グループについて、市場及び環境の変化に伴う収益性の低下による減損の兆候が認められ、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上致しました。

(3) 減損損失の金額

(単位：百万円)

固定資産の種類	金額
建物及び構築物	4,442
機械装置及び運搬具	5,767
工具器具備品	899
土地	3,106
無形固定資産	465
投資その他の資産	70
計	14,749

(4) 資産のグルーピングの方法

当社グループは、原則として管理会計上の事業区分に基づく事業部単位をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位とし、グルーピングを行っています。なお、一部の連結子会社については、会社単位を基準としてグルーピングを行っています。また、本社等の全社的な資産については、複数の資産又は資産グループの将来キャッシュ・フローの生成に寄与する資産として独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。遊休資産及び処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングを行っております。

(5) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、正味売却可能価額又は使用価値を基に算定しております。正味売却可能価額については処分価額により評価し、使用価値については将来キャッシュ・フローを主として6.7%で割り引いて算出しております。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	173,138,537株	－株	－株	173,138,537株

(2) 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	195,825株	280株	29,200株	166,905株

(注) 1. 自己株式の数には、従業員持株 E S O P 信託口が所有する当社株式（当連結会計年度期首29千株、当連結会計年度末－千株）が含まれておりません。

2. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り等によるものであります。

3. 自己株式の数の減少は、従業員持株 E S O P 信託口が N O K 持株会及び市場に売却した当社株式であります。

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,326	25.0	2018年3月31日	2018年6月28日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	4,326	25.0	2018年9月30日	2018年12月4日

(注) 2018年6月27日定時株主総会の決議による配当金の総額には、従業員持株 E S O P 信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

② 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	4,326	利益剰余金	25.0	2019年3月31日	2019年6月27日

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、安全かつ確実な投資対象により行い、また、資金調達については、主として金融機関からの借入により行う方針であります。デリバティブは、実需に基づく為替予約を利用し、投機的な取引は行っておりません。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理に関する定めに従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を半期ごとに把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が財務担当役員に報告されております。

従業員に対する貸付金は、担保の提供を義務付け、かつ、退職時残高の退職金との相殺規定を定めております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（原則として5年以内）は設備投資に備えた資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規定に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次の資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

従業員からの預り金は、固定金利であり、金利変動リスクはありません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日（連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	80,798	80,798	—
(2) 受取手形及び売掛金	145,168	145,168	—
(3) 投資有価証券	96,659	96,659	—
(4) 従業員に対する長期貸付金	3,078	3,376	297
資産計	325,705	326,003	297
(1) 買掛金	44,557	44,557	—
(2) 短期借入金	66,972	66,972	—
(3) 従業員預り金	16,226	16,226	—
(4) 長期借入金	19,563	19,628	64
負債計	147,320	147,384	64
デリバティブ取引計（※）	4	4	—

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1)現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

この時価について、株式は取引所の価格によっております。

(4)従業員に対する長期貸付金

従業員に対する長期貸付金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回りを基準とした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1)買掛金、並びに(2)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)従業員預り金

従業員からの預り金は、期間が1年以内であるため、当該帳簿価額によっております。

(4)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

為替予約の時価は、期末先物為替相場により算出しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式（連結貸借対照表計上額112百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3) 投資有価証券」には含めておりません。

7. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の連結子会社では、神奈川県その他の地域において、賃貸用の不動産を有しております。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額	時価
2,004	8,565

（注）1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む）または適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて算定した金額であります。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額

2,567円92銭

(2) 1株当たり当期純利益

19円77銭

株主資本等変動計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本									自己株式	株主資本 合 計
	資本金	資本剰余金		利 益 準備金	利益剰余金			利益剰余金 合 計			
		資 本 準備金	資本剰余金 合 計		その他利益剰余金						
					特別償却 準 備 金	固 定 資 産 圧縮積立金	繰越利益 剰 余 金				
当 期 首 残 高	23,335	20,397	20,397	2,983	59	1,595	114,958	119,597	△246	163,084	
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当							△8,652	△8,652		△8,652	
特 別 償 却 準 備 金 の 積 立					18		△18	－		－	
特 別 償 却 準 備 金 の 取 崩					△15		15	－		－	
固定資産圧縮積立金の積立						447	△447	－		－	
当 期 純 利 益							21,251	21,251		21,251	
自 己 株 式 の 取 得									△0	△0	
自 己 株 式 の 処 分									98	98	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当 期 変 動 額 合 計	－	－	－	－	3	447	12,148	12,598	97	12,696	
当 期 末 残 高	23,335	20,397	20,397	2,983	62	2,042	127,106	132,196	△148	175,780	

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当 期 首 残 高	57,301	57,301	220,385
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当			△8,652
特 別 償 却 準 備 金 の 積 立			－
特 別 償 却 準 備 金 の 取 崩			－
固定資産圧縮積立金の積立			－
当 期 純 利 益			21,251
自 己 株 式 の 取 得			△0
自 己 株 式 の 処 分			98
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△9,741	△9,741	△9,741
当 期 変 動 額 合 計	△9,741	△9,741	2,954
当 期 末 残 高	47,559	47,559	223,340

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法
 - イ. 子会社・関連会社株式及び出資金
移動平均法による原価法によっております。
 - ロ. その他有価証券
 - ・時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。
 - ・時価のないもの
移動平均法による原価法によっております。
 - ② デリバティブ
時価法によっております。
 - ③ 棚卸資産
 - イ. 製品及び仕掛品
売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。
 - ロ. 原材料及び貯蔵品
総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
 - ② 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
 - ③ リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 引当金の計上基準
 - ① 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等については個別に債権の回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - ② 賞与引当金
従業員賞与の支払いに備えるため、支給見込額基準により計上しております。
 - ③ 退職給付引当金
従業員の退職給付に充てるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。
 - イ. 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理方法
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- (5) 消費税等の会計処理方法
消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式を採用しております。
- (6) 連結納税制度の適用
連結納税制度を適用しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用）
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）に伴う「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第5号 平成30年3月26日）を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

3. 貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額

128,906百万円
- (2) 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権

27,726百万円

長期金銭債権

2,174百万円

短期金銭債務

44,033百万円

長期金銭債務

18百万円
- (3) 保証債務

以下の関係会社の金融機関借入金に対して、債務保証を行っております。

メクテックマニュファクチャリング Corp. 珠海 Ltd.

11,025百万円

(外貨額) (99,328千US\$)

シンジーテックプレジジョンパーツ深セン Co., Ltd.

222百万円

(外貨額) (2,000千US\$)

(4) 期末日満期手形

当事業年度の期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当事業年度の期末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が期末残高に含まれております。

受取手形

1,551百万円
4. 損益計算書に関する注記
- | | |
|------------|------------|
| 関係会社との取引高 | |
| 売上高 | 37,124百万円 |
| 仕入高 | 174,547百万円 |
| 営業取引以外の取引高 | 73,401百万円 |
5. 株主資本等変動計算書に関する注記
- 自己株式の数に関する事項
- | 株式の種類 | 当事業年度期首の株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末の株式数 |
|-------|-------------|------------|------------|------------|
| 普通株式 | 107,970株 | 280株 | 29,200株 | 79,050株 |
- (注) 1. 自己株式の数には、従業員持株E S O P信託口が所有する当社株式（当事業年度期首29千株、当事業年度末一千株）が含まれております。

2. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

3. 自己株式の数の減少は、従業員持株E S O P信託口がN O K持株会及び市場に売却した当社株式であります。
- 12

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰 延 税 金 資 産			
貸 倒 引 当 金	30		百万円
未 払 事 業 税 等	257		
賞 与 引 当 金	1,265		
減 価 償 却 超 過 額	1,342		
投 資 有 価 証 券	1,559		
退 職 給 付 引 当 金	9,169		
そ の 他	727	14,351	
評 価 性 引 当 額		△ 1,420	
繰 延 税 金 資 産 合 計		12,931	
繰 延 税 金 負 債			
特 別 償 却 準 備 金	△ 27		
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	△ 606		
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 20,051		
そ の 他	△ 0	△ 20,685	
繰 延 税 金 負 債 の 純 額		△ 7,754	

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	30.2%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△ 6.9
住民税等均等割額	0.2
税額控除	△ 2.2
外国源泉税	1.9
評価性引当額	△ 0.5
その他	△ 0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.6%

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 子会社及び関連会社

種 類	会 社 等 の 名 称	所 在 地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
子会社	NOKフロイデンベルグ シンガポール Pte.Ltd.	シンガポール	5,978 百万円	中国・インドの子会社・関連会社への出資	直接 50%	—	資金の貸付	—	短期貸付金	3,974
子会社	関西NOK販売(株)	大阪府大阪市	40 百万円	シール製品の仕入・販売	直接51.1%	当社製品の販売をしています	資金の受入	—	CMS預り金	3,904
子会社	中部NOK販売(株)	愛知県名古屋市	24 百万円	シール製品等の仕入・販売	直接70%	当社製品の販売をしています	資金の受入	—	CMS預り金	4,348
関連会社	イーグル工業(株)	東京都港区	10,490 百万円	メカニカルシール等の製造・販売	直接29.0% 間接 1.3%	イーグル工業(株)製品の購入並びに当社製品の販売をしています	製品等の仕入	32,176	買 掛 金	2,807

(2) 役員及び個人主要株主等

種 類	会 社 等 の 名 称	所 在 地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	正 和 地 所 (株)	東京都港区	80	不動産賃貸業	被所有 直接 5.1%	建物等の賃貸借	建物等の賃借	102	—	—

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 資金の貸付受入につきましては、市場金利を勘案の上、利率を決定しております。
- 建物等の賃借及び製品等の仕入につきましては、市場の実勢価格等を勘案の上、決定しております。

8. 1 株当たり情報に関する注記

- 1 株当たり純資産額 1,290円54銭
- 1 株当たり当期純利益 122円80銭